

## 「宇都宮都市交通戦略」の見直しについて

## 1 関連計画等の検討状況と戦略の見直しの視点

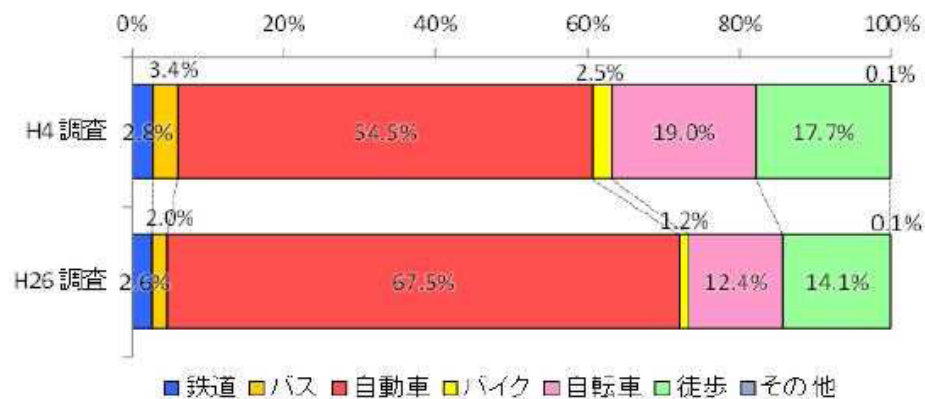
## (1) 県央広域都市圏生活行動実態調査（平成 26 年度実施）

宇都宮市のほか周辺 6 市 7 町を調査対象区域として実施

<交通に関する主な集計結果>

- ・ 宇都宮市における代表交通手段分担率について、前回調査（平成 4 年）と比較して、自動車の割合が大きく増加した一方で、公共交通や自転車の割合は減少した。

代表交通手段分担率の推移（宇都宮市）



## &lt;見直しの視点&gt;

代表交通手段分担率を見ると、自動車への依存がさらに強くなっており、公共交通への利用転換を図っていく必要がある。

⇒ 需要に応じた L R T、バス、地域内交通の整備や連携強化など、市民の移動実態を踏まえた効率的・効果的な交通ネットワークの構築を図る。

## (2) 「宇都宮市人口ビジョン」、 「宇都宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略」

（平成 27 年度策定）

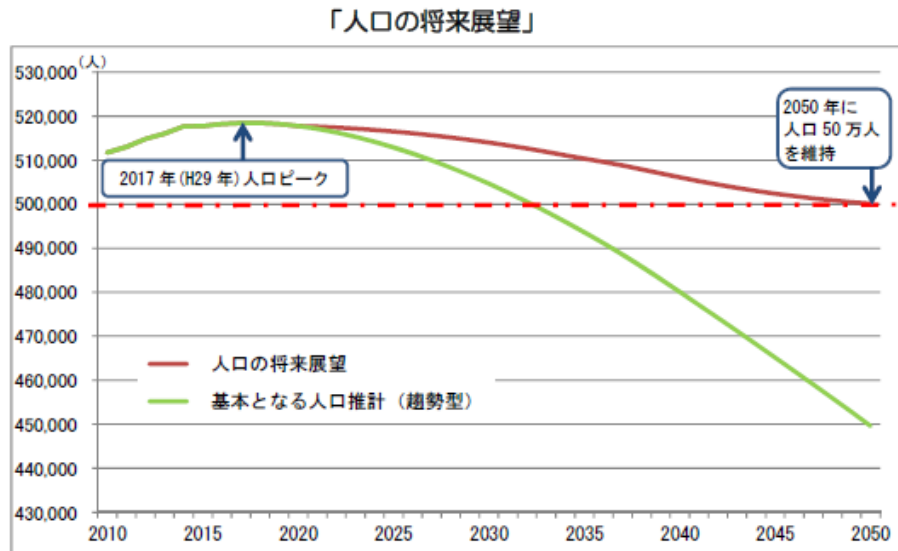
2050 年を見通した長期的な視点で、まちづくりの方向性を示すとともに、その着実な実現に向け、目標や施策の基本的方向、具体的な施策を取りまとめたもの

<本市における人口の将来展望>

- ・ 本市人口は 2017 年（平成 29 年）に約 52 万人でピークを迎え、その後減少
- ・ 出生率の向上及び本市と東京圏での人口移動の均衡、ネットワーク型コンパクトシティの実現により、2050 年（平成 62 年）においても約 50 万人の人口を確保できる見通し

<基本目標>

- ・ 市民の結婚・出産・子育ての希望を実現する
- ・ 人口の定着と東京圏からの流入人口の増加を図る
- ・ 人口規模・構造の変化に適合したまち，ネットワーク型コンパクトシティを実現する



<見直しの視点>

「東京圏からの流入人口の増加」やネットワーク型コンパクトシティの形成を図るため，市外からのアクセス性の向上も含め，利便性の高い公共交通ネットワークを構築する必要がある。

⇒ 鉄道やLRT，バス，地域内交通，自転車等が連携した交通ネットワークの構築とともに，トランジットセンターの整備やICカードの導入等，乗り換えの利便性向上の取組について反映する。

(3) JR宇都宮駅東側に係る検討

○「芳賀・宇都宮東部地域公共交通網形成計画」(平成27年11月策定)

東西基幹公共交通として「LRTの導入」やLRTの導入と合わせた「バスネットワークの再編」，交通結節機能の強化のための「トランジットセンターの整備」，公共交通の乗り継ぎ円滑化や利便性向上のための「ICカードの導入」等を位置づけ

・「LRTの導入」

平成28年1月に「軌道運送高度化実施計画」を策定し，国に認定申請を行ったところであり，今後，平成31年度の開業に向けて事業を推進

・「バスネットワーク再編」

今後，LRTの供用開始(平成31年度予定)に合わせたバスネットワークの再編実施計画の策定に向けて，LRTや地域内交通と連携したバスネットワークを検討

(平成28年度の取組)

『駅東側におけるバス路線再編計画調査』

<検討事項>

- ・LRTを補完する LRTを補完する幹線公共交通としての幹線バス路線の整備
- ・主要施設間を連絡する支線バスの導入
- ・トランジットセンター（乗継拠点）におけるLRT、広域バス路線、支線バス、地域内交通、自転車、自動車との連携
- ・バスの運行ダイヤや、乗り継ぎ割引を含めた運賃体系 等

<見直しの視点>

「芳賀・宇都宮東部地域公共交通網形成計画」に基づくLRT整備やバスネットワーク再編の進捗状況を踏まえて、駅東側における交通体系や具体的な取組を検討する必要がある。

⇒ 駅東側におけるLRTの導入やバスネットワークの再編、トランジットセンターの整備、地域内交通や自動車、自転車との連携などの具体的な取組を反映する。

(4) JR宇都宮駅西側に係る検討

○JR宇都宮駅西側におけるLRT整備の検討（平成28年度実施予定）

JR宇都宮駅西側についても、早急にLRT整備の検討を進めていく必要があることから、平成28年度に、整備区間の検証や既存の鉄道・バスとの連携、自動車交通のあり方等についての検討を実施

(平成28年度の取組)

『LRTのJR宇都宮駅西側整備に係る基礎調査』

<検討事項>

- ・「桜通り十文字付近」からのさらなる延伸の必要性を含めたLRTの整備区間の検証
- ・既存の鉄道やバスとの連携（トランジットセンターの整備等）
- ・大通りのLRTとバスの役割分担 等

<見直しの視点>

「LRTのJR宇都宮駅西側整備に係る基礎調査」の結果等を踏まえ、駅西側のLRTの整備区間やバスネットワーク、中心市街地の歩行者・自転車・公共交通のあり方等について検討する必要がある。

⇒ LRTの整備区間、LRTと既存の鉄道・バスとの連携方策、大通りの交通処理のあり方等の検討結果を反映するとともに、駅東側の検討状況と合わせて市全体の交通体系のイメージを取りまとめる。

(5) 「自転車のまち推進計画後期計画」(平成28年3月策定予定)

だれもが安全で快適に楽しく自転車が利用できるとともに、ひとや環境にやさしい「自転車のまち」をより一層推進するために策定

＜後期計画の5つの柱＞ (施策事業)

- ・ “安全” 「安全な走行空間の確保」「安全啓発活動の実施」  
「安全を守る環境づくりの推進」
- ・ “快適” 「回遊性の向上」「中心市街地における利用環境向上」  
「サイクリストへのサポート」「サポート制度の創出」
- ・ “楽しく” 「プロスポーツとの連携・宮サイクルステーションの拡充」  
『「自転車のまち宇都宮」』のさらなるPR」
- ・ “健康とエコ” 「環境負荷の低減」「健康増進のPR」
- ・ 【新】 “つながる” 「公共交通との連携強化」「広域的な周遊促進」

＜見直しの視点＞

「公共交通との連携強化」や「広域的な周遊促進」など交通ネットワークとしての自転車の活用について検討する必要がある。

⇒ 交通結節点での自転車利用の促進やサイクリングロードの整備など具体的な取組を反映する。

(6) 「立地適正化計画」(平成28年度「都市機能誘導区域の設定」,

平成30年度「居住誘導区域の設定」予定)

ネットワーク型コンパクトシティを具現化し、高齢者をはじめ市民にとって安心して快適な生活環境を実現するため、公共交通ネットワークの構築と連携を図りながら、居住や医療・福祉、商業などの都市の生活を支える機能の立地誘導の取組を総合的・一体的に推進するために策定

(平成27年度の取組)

- ・ 「都市づくりの理念」や「都市づくりの目標」等の立地適正化に関する基本的な方針等をまとめた計画の素案を策定

(平成28年度の取組)

- ・ 誘導する都市機能、誘導区域、誘導施策を検討し、計画を策定

(都市機能誘導区域の設定)

#### <見直しの視点>

都市機能誘導や居住誘導の考え方を踏まえた交通ネットワークの構築について検討する必要がある。

⇒ 都市機能誘導や居住誘導と連携した公共交通ネットワークやサービスレベルについて検討し、反映する。

### (7) 公共交通とまちづくりの連携

本市では、「総合的な交通ネットワークの構築」により、全国のモデルとして、環境にやさしく子どもから高齢者まで誰もが快適に移動し、外出によって健康が増進されるなど、人や企業の活動を活性化させる「交通未来都市うつのみや」の実現を目指している。

#### <見直しの視点>

公共交通とまちづくりの連携強化を図る必要がある。

⇒ 環境や福祉、健康、産業振興など幅広いまちづくり施策と連携した交通ネットワークの検討を進め、施策事業に反映する。

- ・クルマの利用抑制による環境負荷低減
- ・外出機会の増加による市民の健康増進
- ・市民や企業の活動の円滑化による経済の活性化
- ・まちのシンボルとなる魅力ある都市景観の形成

## 2 見直しの進め方 (別紙2参照)

- ・ 「宇都宮都市交通戦略」の見直しにあたっては、「県央広域都市圏生活行動実態調査結果」に基づく市民の移動実態や「立地適正化計画」等の関連計画、駅東側のLRT整備やバスネットワーク再編、駅西側におけるLRT整備に係る基礎調査の検討状況を踏まえながら検討を進めることとする。

## 3 スケジュール

平成28年度 関連計画等の反映やまちづくりとの連携等の検討

平成29年度～ 目指すべき交通ネットワークや施策事業の検討

⇒ 「宇都宮都市交通戦略」の改定